

松下村塾は 1842 年から 1892 まで私塾として運営された、日本の歴史においてもっとも重要な学校のひとつである。吉田松陰(1830-1859)の教えを 1857 年から 1858 年の間に受けた 92 名のうち、2 名が首相に就き、多くの門下生が高級官僚になり、明治（1868-1912）維新を通じて近代日本の誕生に大きく貢献した。

この小さな私塾の巨大な影響は、吉田松陰のリーダーシップと教えが原因だった。彼は 1830 年に最下位の武家に生まれ、家族の農家を支えつつ育った。彼の家族は裕福ではなかったため、松陰と一緒に働きながら父親から教育を受けた。この実践を伴う学びは彼の教育スタイルの基盤となった。

1854 年、松陰は幕府に開港を迫っていた米国コモドーア・マシュー・ペリーの "黒船"に乗り込んで逮捕され、故郷の萩へと送還された。松陰は、アヘン戦争で中国の清朝の敗北を知り、西洋の技術的優位性を見て、日本が技術的にも社会的にも自国を守るため、近代化しなければならないと確信した。故郷の萩では既に有名な教育者であったが、逮捕された後、小さな部屋で講義を始め、彼の革命的な教育は口伝に人気を集めた。

松下村塾で、松陰は日本、中国、西洋の知的伝統に由来する軍事戦術、哲学、歴史、農業などを教えた。しかし、彼の主要な目標は、社会的な立場に関係なく、社会に貢献する方法を学生に教えることであった。彼は江戸（東京）に召喚され、京都の政府高官への攻撃を企てたために死亡したが、彼の野心と理想は門下生たちを介して生き続けていた。